國學院大學学術情報リポジトリ

The Chinese University Students' Perceptions of the Japanese Emperor Based on the Practice Reports of Japanese Language Department Students

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2023-02-07
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 韓, 立紅
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001632

日本語学科の学生の実践報告から見る
中国大学生の天皇認識

The Chinese University Students' Perceptions of the Japanese Emperor Based on the Practice Reports of Japanese Language Department Students

韓　立　紅

キーワード：日本語学科　実践報告　中国大学生　天皇認識
关键词：日语系　实践报告　中国大学生　天皇观

要旨

本文は、中国南開大学日本語科三年生の「日本文化概論」という授業における学生の実践報告を基にして、日本の天皇に関する大学生の認識を考察した。使用しているデータは、2016年から2019年まで四年間にわたって、南開大学日本語科が設けられている「南開日語」という公式アカウントに掲載されていた大学三年生の授業の実践成果である。四年間に「南開日語」に掲載されている大学生の実践報告数は、併せて86本ぐらいあるが、中には、天皇関係の実践報告の数は7本として、平均年に8.1％ぐらい占めている。実際、この授業における天皇に関する内容は、年間教員の総授業内容の16.1％ぐらい占めているが、学生の天皇関連の報告数は実践報告全体の8.1％しか占めていない。この数字からみれば、中国の大学生の日本天皇への関心度は、他の分野と比べてみる場合、決して高いとは言えないと同時に、大学生の日本に対する関心点は、大学における教員の授業内容から深い影響を受けたとは必ずしも言えない。

摘要

本文以中国南开大学日语系三年级学生“日本文化概论”课程中学生的实践报告为基础，对中国大学生的日本天皇观进行了考察。所使用的数据来自于自2016年至2019年四年期间，学生们公开发表在南开大学日语系创办的公众号“南开日语”上的实践报告。四年当中，发表在公众号上学生的实践报告共有86篇，其中涉及日本天皇内容的实践报告数为7篇，平均每年为8.1%左右。实际上，从教师的授课内容来看，有关天皇的内容量约占全年总授课量的16.1%，而学生有关天皇内容的实践报告数量却仅仅是8.1%左右。可以说，中国大学生对日本天皇的关心度可谓不高。另外，从这个统记数字来看，大学生对日本感兴趣的热点不一定受教师授课内容的影响。

一、実践報告とは

中国において四年制の大学数は1200余り[1]で、その中、日本語学院や日本語学科が設置されてある大学数は600近く[2]ある。総合大学の日本語学科と専門外国語大学の日本語学科の教育は多少差異があるが、大体、日本語言語、日本文学、日本社会文化など三つの方向に分けられている。

日本社会文化に関する教育は、各大学は各々状況によって異なっているところもある。例えば、日本人の衣食住や「茶道」「花道」に関する表象内容を主とする大学もあれば、あるいは「日本文化史」のような学部生にとってはやや難しそうな内容を主とする大学もある。

南開大学日本語学科は、1997年から日本文化という方向の授業が設けられ、筆者も1997年からこの授業を担当するようになってきた。「日本文化概況」という新しい授業を教えながら、テキストの編著を始めた。5年間の時間もかけて、授業とテキストの構築を進めてきた。

2003年に、筆者の編著した『日本文化概論』の日本語版が南開大学の出版社よって出版された。2006年に日本語版第二版が出版され、2008年に中国語版が出版され、2018年にデジタル化された日本語版第三版が出版され、中国多くの大学の日本語学科に使われてきた。

この授業は、日本の精神文化の考察に重点が置かれている。著書は11章によって構成されているが、前半部の6章の内容を主にして授業をしてきた。第一章では、日本文化の基本的な特徴―その開放性と主体性について考察し、第二章は、生産方式から日本の稲作文化の特徴について考察を行い、第三章は、「家」制度を基礎としている日本の縦社会の人間関係について考察を行い、第四章は、実用を重んじている日本人の倫理思想について考察を行い、第五章は、「無常観」から日本文学思想を考察し、第六章では、日本の天皇崇拝の歴史について考察を行う、という内容で授業を教えてきた。

南開大学は、学部生の教育においては、「講一練二考三」（講義の内容は一である場合、練習の内容はダブルに増加し、試験の内容は三倍に増加する）という教

(1)　中国政府ネットwww.gov.cn
(2)　同上。

学理念を主張し、すべての授業は学部生の思考能力と実践能力を高めることに重点が置かれている。「日本文化概況」という授業も学生の思考能力の養成と実践能力の向上を目指して、授業の中で、問題意識の養成、それを解決するするための総合能力と実践能力の養成を中心にして進めてきた。

一年間の授業は、週に一回、一回には90分、あわせて、六章の内容の講義と、6回の実践報告が設けられてある。報告のある場合、一回に6名から8名ぐらいの学生報告者があるが、テーマは日本に関する内容ならば自由で、一人が十分間ぐらいの実践報告の時間が設けられ、その中から優秀な報告を選び、南開大学日本語学科の公式アカウント「南開日語」(3) に載せられるようになっている。

「南開日語」とは、南開大学日本語学科が設けられてある公式アカウントとして、日本語学科の先生と学生らの研究や勉強の成果を公式に掲載し、又は各種のコンテストに参加し優勝を獲得した学生を公式に表彰するどころでもある。

二、天皇に関する実践報告

毎年、「南開日語」に載せられる三年生の実践報告の本数は特別に規定がなく、学生の寄稿の中から優秀な報告を選んで、指導教員が修正済みの原稿を掲載することになっている。

ここでは、2016年から2019年まで、「南開日語」に載せられた大学生の実践報告を例にして、考察を行うことにする。

例えば、2016年に載せられる学生の実践報告は12篇（その中には、2編が内容が長く、各々上下や、一二三と分けられて発表している）がある。テーマは次のようである。

2016年

掲載時間	作者	テーマ	参考文献
2016.01.02	徐美婷	日本の相撲文化	1. 王彦花「日本の相撲と日本文化」『日本語学習と研究』2005年01期 2. 朱小紅「日本相撲の歴史変化と文化的な意味」『社会科学』2011年第S1期
2016.01.18	呂聡	日本氏姓の由来	1. 大藤修『日本人の姓苗字名前人名に刻まれた歴史』吉川弘文館 2012年

(3) nknihongo

2016.01.21	任驪安	日本の職人文化	1. 遠藤元男『職人の歴史』至文堂 1956年 2. 趙堅『日本人の職人文化』『百科知識』出版社 2011
2016.01.22	章睿	日本の職場文化	1.「日本ドラマに見る日本の職場文化」、「人民網」日本語版、2014-10-27 2. データの出処：「生涯学習のユーキャントップ」
2016.02.03	于田	栄西と『喫茶養生記』	1. 廖育群「『喫茶養生記』――一つの宗教医学典型モデルの解析」『中国科学技術史雑誌』
2016.04.14	王萌	日本の漆器	1. 谷崎純一郎著 孟慶枢訳『陰翳礼讃』河北教育出版社 2002 2. 瞿心安「日本の漆器」『上海工芸美術』1995年3期
2016.04.21	王曉琳	日本の婚姻変化に関する一考察	1. 佐藤留美『結婚難民』小学館 2008年 2. 阿藤誠『家族観の変化と超少子化』毎日新聞社 2005年 3. 鄒瑩慧「アフター80の婚姻観に関する考察」『社会観察』2012年 4. データの出処：日本国立社会保障人口問題研究所『人口統計資料集2013年』関東地区 ビデオリサーチ
2016.04.26	王孟璇	日本の養子文化	1. 李卓『中日家族制度の比較研究』人民出版社 2004年 2. 川口敦司「中日家族制度の比較研究」『開放時代』2001年1期
2016.05.10	薛嘉潔	鑑真の渡日と日本仏教	1. 楼暁潔「日本仏教発展の研究」『黔東南民族師範専門学校学報』第20巻第1期，2002 2. 呉春燕「日本仏教本土化の歴史と特色」『中州学刊』総第175期 2010 3. 楊曽文「唐鑑真大和尚の渡日と日本律宗」『揚州大学学報』第15巻第2期 2011
2016.10.13	崔雪婷	明仁天皇の生前退位とその背景（一）	1.「朝日新聞」、「毎日新聞」、「読売新聞」、「日経新聞」、「産経新聞」、「東京新聞」、紅旗新聞2016年7月13日、14日及8月8日、9日デジタル版 2.「文芸春秋」第九十四巻 第三十号 3.『京華時報』8月9日デジタル版、新華デジタル7月17日デジタル版
2016.10.14	範文竹	明仁天皇の生前退位とその背景（二）	1.「朝日新聞」8月9日デジタル版「与野党の反応、衆参議長談話、首相コメント　天皇陛下お気持ち表明」 「毎日新聞」8月10日デジタル版「皇室：天皇陛下お気持ち　生前退位「容認」86％ 法整備「直ちに」54％ 共同世論調査」 「朝日新聞」8月21日デジタル版「生前退位、有識者会議の設置に言及　菅官房長官」 「朝日新聞」9月8日デジタル版「一代限りの「生前退位」特措法、来年国会にも法案提出」 「朝日新聞」9月15日デジタル版「政府、生前退位の有識者会議立ち上げへ　論点を整理」 「朝日新聞」9月30日デジタル版「生前退位「改憲は必要ない」　内閣法制局長官が答弁」 「朝日新聞」10月5日デジタル版「生前退位、与野党に溝　特例法か皇室典範改正か」 「産経新聞」10月6日デジタル版「生前退位菅義偉官房長官「国会で議論必要」と明言　「パンドラの箱を開けてしまう」懸念で自民は後ろ向き（1-2ページ）」

2016.10.16	蒋静瑶	明仁天皇の生前退位とその背景（三）	1.「Jcast新聞」2015年３月１日デジタル版 「東京新聞」2009年７月14日デジタル版 「産経新聞」2016年９月23日デジタル版 「毎日新聞」2016年８月10日デジタル版 「NHK news」Web
2016.12.01	張璐	「ゆとり」世代の未来(上)	1.「小・中学校の学習指導要領の改訂等」文部科学省 2. 調査データの出処：「平成23年（2011）人口動態統計（確定数）の概況」厚生労働省
2016.12.07		「ゆとり」世代の未来（下）	1. 後藤和智《まえが若者を語るな!》，角川書店、2008年９月。 2.《「京大工学生はゆとり世代から学力低下」～さらば工学部》．日経ビジネスオンライン，日経BP社． 3. 調査データの出処：OECD生徒の学習到達度調査（PISA）
2016.12.31	王舒	日本企業の「長寿」の謎	1. 舩橋晴雄『新日本永代蔵―企業永続の法則―』（日経BP社／2003年） 2. データの出処：東京商工リサーチ「全国創業100年超え企業の実態調査」（2012）

以上のように、2016年に12本の実践報告が公式アカウントに載せられ、参考文献が31本で、その中で天皇に関する報告数は１本しかない。つまり全体の実践報告本数の８％ぐらい占めている。

翌年の2017年になると、次のような実践報告が公式アカウントに載せられてある。

2017年

掲載時間	作者	テーマ	参考文献
2017.05.02	何京晏	日本のペット文化について	表記されいない
2017.05.21	康寧	日本女性の地位変化に関する一考察	1.「日本女性の社会地位に関する歴史的研究」シャジニナ・ハンナ 2.「男女平等ランキング、日本は101位女性活躍へ道遠く」日本経済新聞 2017年５月17日 3. エキサイトエコノミックニュース 2013年３月２日
2017.05.22	李曉玲	日本相撲の起源に関する一考察	1. 日本相撲協会公式サイト：www.sumo.or.jp/ 2. 前田富祺『日本語源大辞典』，小学館，2005年 3. 林曉玫「相撲から日本の国民性を見る」、『牡丹』、2016年第12期 4. 閻智力，市直丸人，石井勝「相撲運動の起源と発展」、『成都体育学院学報』、2008年第１期
2017.05.30	湯璇	日本平安時代の貴族文化に関する一考察	1. 坂本太郎『日本史概説』至文堂 1965年 2. 葉渭渠『日本文化史』广西師範大学出版社 2003年 3. 家永三郎『日本文化史』岩波書店 1982年

2017.06.02	馮静悦	中国人の日本における「爆買」行為について	1.『百貨店での「爆買い」が減速』フジテレビ系（FNN）5月21日 2.『“爆買い”→“体験型”に　狙え！外国人観光客』テレビ朝日系（ANN）5月31日
2017.06.04	王佳玉	日本の手帳文化	1. JMAM『手帳活用パーフェクトbook』手帳研究会 2012 2. 舘神龍彦『手帳カスタマイズ術　最強のマイ手帳を作る58のヒント』ダイヤモンド社 2011
2017.06.05	穆男	戦後日本の女性婚姻観の変化について	1. 藤井治枝『日本型企業社会と女性労働－職業と家庭の両立をめざして』ミネルヴァ書房 1995 2. 田美虹「日本女性婚姻観の変化と影響」『東北アジア研究』2015年2期 3. 陸小媛「戦後日本女性の教育と変遷」『中国校外教育』2011年4期 4. 王節節「日本のドラマから戦後日本女性の婚姻観変化の原因に関する考察」『黒龍教育学院学報』2014年3期
2017.06.08	高裕子	桜と日本文化	1. 白曉光「桜」『日本語知識』1999年1期 2. 胡稹「日本古典文学における桜の象徴的な意義」『日本語学習と研究』2005年1期 3. 川端康成 葉渭渠訳『伊豆の踊子』広西師範大学出版社 2002
2017.06.10	顧莫羽	中日両国の家庭内暴力に関して	1. 梁景和編『婚姻、家庭、性別研究第四期』社会科学文献出版社　2014 2. 潭琳．姜秀花 編『家庭平和、社会進歩と性別平等』社会科学文献出版社 2015 3. 星野仁彦『発達障害に気づかい大人たち』祥伝社新書 1999 4. 松島京『親密な関係性における暴力性とジェンダー』立命館産業社会論集 36（4）2001
2017.06.11	楊恵越	日本の茶道文化に関する一考察	1. 滕軍『日本茶道文化概論』東方出版社，2005 2. 滕軍「日本茶道及びその文化意義について」『日本語学習と研究』2007年3期 3. 李紅「和敬清寂と茶禅一味―日本茶道について」『河南大学学報』2013年2期
2017.06.12	王安琪	日本の忍者と忍者文化について	1. 潘趙丹『日本人の忍に関する考察』[D] 上海外国語大学 2012 2. 章新.何平.肖考.李小兪「忍者精神と日本の国民性」『広西職業技術学院学報』2010年4期 3. 島村輝「忍者という立場――忍びの者における民族と大衆」『日本語学習と研究』2009年1期 4. 周鋒「忍者現象から日本の忍者文化を見る」『韶关学院学報』2007年5期
2017.07.15	楊恵越	日本の巫女の最初――卑弥呼	1. 陳寿『三国史・魏志・倭人伝』 2. 王順利「邪馬台国の社会について」『外国問題研究』1994年1期 3. 王凱「銅鏡と日本原始王権」『日本研究』2010年2期

2017.11.29	趙曼	昭和天皇と戦争責任について	1. 河原敏明『日本天皇―裕仁』軍事訳文出版社 1986 2. 王俊彦『日本天皇と皇室内幕』群衆出版社 1992 3. 島田政雄『戦後日中关系50 年』江西教育出版社 1998 4. 井上清『天皇の戦争責任』商務印書館 1983 5. ポラティ．司馬義「昭和天皇の第二次世界大戦における作用と戦後日本に与えた影響について」『軍事歴史研究』2001年2期
2017.12.3	張文琦	日本天皇の生前退位を前にして、まさか女天皇が誕生？	1. 範閩仙「日本古代女帝の形成とその原因について」『福建師範大学学報』1996年2期 2. 于欣『中日女性の社会地位の比較研究』［M］ハルビン理工大学 2014. 3. 王海燕「日本女帝の皇位継嗣に関する考察」『世界歴史』2006年3期 4. 退位決定、残った課題　皇室会議、議事概要公表　匿名、異論記載なし：朝日新聞デジタル，2017年12月9日 皇室会議、採決がない初のケース　25年ぶりの開催：朝日新聞デジタル，2017年12月1日
2017. 12.7	張夢茹	「神秘」な日本天皇について	1. 王泰平「日本天皇と天皇制」『世界知識』1980年3期 2. 兪天任「日本天皇制度に関する考察」『金融博覧』2011年6期 3. 王欽「日本天皇制の存続原因について」『人民論壇』2012年20期 4. 唐保萍「日本天皇制の存続する土壌」『群文天地』2010年20期
2017.12.12	朱港松	「江歌」事件から日本の死刑制度に関する考察	1. 鄭超「日本の死刑現状とと与死刑基准について」『日本法研究』2017年00期 2. 周振杰「日本死刑司法コントロールの経験と啓示」『法学』2017年06期 3. 前田俊郎「死刑適用基準の検討」『法律』第24巻第3号 4. 袁琴武「日本及びわが国台湾地域死刑執行に関する考察と啓示」『法律博覧』2017年22期
2017.12.20	李韵	「勤労感謝の日」の文化背景 ――新嘗祭と大嘗祭	1. 折口信夫「大嘗祭の本義」『天皇制論集』三一書房 2. 西郷信綱「大嘗祭の構造――日本古代王権の研究」『天皇制論集』三一書房 3. 丁寧「大嘗祭の文化記憶に関する考察」［M］『四川外国語大学』2004年 4. 王秀文「大嘗祭の文化背景とその意義」［M］『遼寧師範大学』1997年
2017.12.27	郭偉京	隋唐時期における中日の交流と影響	1. 華正中「隋唐時期中日仏教芸術の交流」『チベット民族学院学報』1989年9期 2. 杜民喜「唐代における中日文化交流に関する考察」『北方論壇』1999年2期 3. 刘淑梅 李晶「唐代の中国文化が日本に与えた影響」『チチハル師範大学学報』1995年5期

2017.12.30	姚隽懿	日本三大祭りの「祇園祭」について	1. 孫玲慧「日本の年中行事に関する研究」[D]. 上海師範大学 2017. 2. 鄭万鵬「祇園祭」『外国問題研究』1983年1期 3. 常春霞「日本祇園祭の文化伝承機能に関る考察」[D]. 中国海洋大学 2013.

以上2017年の19本の論文が62個の参考文献ある。中国と日本の研究領域の専門著作と研究論文を参考にしていることがわかる。19本の実践報告の中では、天皇に関する報告は3本がある。2016年の8％と比べると、2017年の15％に伸びたのである。その原因は、天皇の生前退位に関する中日両国のマスコミの報道が多くなったことと関りがあると思われる。

一方、2018年の実践報告は31本まで増える。字数の関係で天皇に関する報告以外の参考文献の表記を省くがテーマは以下の通りである。

2018年

発表時間	作者	テーマ	参考文献
2018.02.12	郭金夢	日本人がこのように新年を迎えているのだね（上）	
2018.02.15		日本人がこのように新年を迎えているのだね（下）	
2018.04.07	杜明睿	上下共生、社会は家――日本社会の「国民皆年金」に関する一考察	
2018.05.19	蒋舒洋	日本の家紋に関する一考察	
2018.05.22	魯夢笛	菅原道真と日本の天神信仰について	
2018.05.23	郝雨璇	尊王攘夷及び儒教が与えた影響について	
2018.05.27	李正平	日本の原住民――アイヌ人	
2018.05.28	李媛	「神仏融合」の日本宗教信仰に関する一考察	
2018.05.29	郭偉京	中日妖怪文化の相異――玉藻の前を例にして	
2018.05.31	趙曼	日本企業管理における儒家思想	

2018.06.03	蒋超儀	江戸時代における朱子学の官学地位の確立について	
2018.06.04	畢嘉儀	日本企業制度の再考と啓示	
2018.06.05	常馨月	日本の老年犯罪から見る日本の養老福利制度	
2018.06.06	張文琦	日米貿易戦争に関する思考の一つ	
2018.06.09	李韵	宝塚歌劇団から見る日本女性の性別観念	
2018.06.11	姚隽懿	平塚雷鳥と日本女性主義の濫觴	
2018.06.14	張思蔚	日本の学校制服文化について	
2018.06.16	張夢茹	維新150周年：日本近代の改革政治家——大久保利通	
2018.06.16	胡宇荷	桓武天皇の遷都における宗教の影響	韓賓娜「日本古代の遷都について」『中国歴史地理論叢』2002年4期 韓賓娜　「平安遷都の宗教原因について」『東北師範大学学報』2003年3期 横田健一『道鏡』吉川弘文館人物叢書 1988年 『人物・日本の歴史』（2.奈良から平安へ）読売新聞社刊 高橋昌明『千年古都の京都』上海交通大学出版社 2016 呉春燕「日本仏教本土化の歴史と特色」『中州学刊』2010年1期
2018.06.19	楊舒棋	日本文学における「白居易」の影響	
2018.11.30	趙雪菲	キリスト教が日本における伝播とその影響（上）	
		キリスト教が日本における伝播とその影響（下）	
2018.12.01	呂琳	武士道と禅宗の内在関係について（上）	
		武士道と禅宗の内在関係について（下）	
2018.12.05	張崧卓	『もののけ姫』における神道文化——祭祀と多神信仰	

2018.12.12	温明惠	一花一世界，一葉一如来――仏教と花道の二三事	
2018.12.13	劉静雯	儒学が日本に与えた影響	
2018.12.22	蔡景虹	日本の集団主義と「家」意識	
2018.12.22	崔文静	集団主義が日本社会秩序に与えた影響	
2018.12.26	董家琛	学校キャンパスの中に見られる集団主義の表現	
	林雨琦	日本の集団主義と第二次世界大戦	
2018.12.29	顔奇博	中日両国の集団主義の比較研究	
	耿銘悦	集団主義が日本人の性格に与えた影響	
2018.12.30	何璇	日本企業文化における集団主義（一）	
		日本企業文化における集団主義（二）	

上記ある31本の実践報告の中で、天皇に関する報告は1本だけである。ここから、天皇の生前退位は既に決められ、マスコミの報道の熱度も冷め、学生たちの天皇に関る関心も低くなったことがわかる。

2019年度、実践報告の本数は24本である。字数の関係でやはり天皇に関する報告以外の参考文献の表記を省くがテーマは以下の通りである。

2019年

発表時間	作者	テーマ	参考文献
2019.05.01	盧永康	日本神話と天皇	ルーズ．ベネディクト『菊と刀』武漢出版社 2009 蔡艶艶「日本神話における天照大神の特異性に関する研究」『中国科学技術情報』2005年9期 王欽「日本天皇制の存続原因について」『人民論壇』2012年20期
2019.05.02	袁鴻峻	日本の神話と日本女性	
2019.05.04	段閻凱	神道信仰と日本人の生活	
	張宇程	日本神話の三大特徴	
2019.05.05	黄浩波	日本三大妖怪の覆滅（一）	

2019.05.06		日本三大妖怪の覆滅（二）	
2019.05.07		日本三大妖怪の覆滅（三）	
2019.05.07	李樹奎	二つの顔を持っている神――須佐之男命	
2019.05.23	張崧卓	日本年号制度の変化	1. 王曉雲　黄鶯「日本年号の由来と特徴」『日本語知識』2012年5期 2. 李寅生「中国伝統文化の典籍が日本天皇の年号に与えた影響」『日本研究』2001年2期 3. 陳景彦 張錦「江戸時代の年号から儒学文化摂取に関する考察」『社会科学論叢』2011年2期
2019.05.29	陳沢茜	仏教から来たのね――日本人生活の中の仏教用語	
2019.05.30	董雅灵	仏教が日本飲食文化に与えた影響	
	趙佳琪	日本の仏前結婚式	
2019.05.31	柳一錫	日本の駅弁文化	
2019.06.04	朱晩晴	『奥の細道』と松尾芭蕉の無常観について	
2019.06.04	劉晨曦	無常と阿頼耶識	
2019.06.06	劉晶	日本の弁当から見る日本人の無常の美意識	
	畢瀛之	『平家物語』と無常観	
2019.06.07	李子揚	「無常」と日本人の災難意識	
2019.12.14	呂凡	中国の洋務運動と日本の明治維新	
2019.12.16	蒋天晨	幕末の浪人警察組織――新選組と明治維新	
2019.12.18	汪詩蒙 胡嘯涵	日本神社の色々	
2019.12.19	劉崢	明治維新期の日本軍事に関する一考察	
2019.12.20	房学宸	日本財閥の起源と発展について	
2019.12.27	宋文権	唐楽の日本伝播から見る日本文化の特徴	
2019.12.29	白耀文	戦後の日本：百万分の一の機会をつかんで	
2019.12.30	楊帆	盂蘭盆会――一生死を乗り越えた夏の盛会	
2019.12.31	葛慧俊	伝統色彩と日本人の自然観	

25本の実践報告の中で、天皇に関する内容の本数は2本として8％ぐらい占めている。

2020年度は、コロナの影響で公式アカウントにおける文章の発表も多少影響があって、統計の中に計算しないことにする。

もう一度、まとめてみると、2016年に12本の実践報告の中に天皇に関する報告数は1本で、8％ぐらい占めている。2017年に19本の実践報告の中では、天皇に関する報告は3本があり、15％に伸びたのである。2018年には31本の実践報告の中に、天皇に関する報告は1本で、3％しかない。2019年度、実践報告の本数は24本で、天皇に関する内容の本数は2本として、8％ぐらい占めている。2016年から、2017年、2018年と2019年度のを併せて86本ぐらいあるが、中には、天皇関係の実践報告の数は7本として、8.1％ぐらい占めている。日本社会の各分野に関する報告として、中国の大学生の日本天皇への関心度は、他の分野と比べてみる場合、決して高いとは言えないのである。

三、実践報告の参考文献

次は、天皇に関する中国の大学生の実践報告の参考文献について考察してみる。

2016年に天皇に関する内容の実践報告数は1本で、テーマは「明仁天皇の生前退位とその背景」であって、2017年に天皇に関する内容の実践報告数は3本で、テーマは「「神秘」な日本天皇について」、「日本天皇の生前退位を前にして、まさか女天皇が誕生？」、「昭和天皇と戦争責任について」であって、2018年に天皇に関する内容の実践報告数は1本で、テーマは、「桓武天皇の遷都の宗教原因について」であって、2019年に天皇に関する内容の実践報告数は2本であって、テーマは「日本神話と天皇」、「日本年号制度の変化についての一考察」である。テーマから見ると、神話時代の天皇についての報告が1本、古代天皇に関わる報告が1本、現代の天皇にかかわる報告は4本がある。ほかには尊王攘夷や年号に関する論文は各1本がある。テーマの取り扱われた年代から見ると、中国の大学生は、やはり現代の天皇に対する関心度が高いことがわかる。

以上7本の実践報告の参考文献を再び振り返ってみると、次のようにまとめることができる。

2016年10月13日に掲載された実践報告の「明仁天皇の生前退位とその背景」の

参考文献は、主は日本と中国の新聞などに掲載されてあるデジタル版のニースである。例えば、日本の「朝日新聞」、「毎日新聞」、「読売新聞」、「日経新聞」、「産経新聞」、「東京新聞」、「赤旗新聞」など、中国の「京華時報」、「新華デジタル」などのデジタル版である。

2017年11月29日に掲載された実践報告の「昭和天皇と戦争責任について」の参考文献は5本で、中国の学術雑誌に掲載された論文が1本で、その他は、日本人学者の研究著作が主になっている。

2017年12月3日に掲載された実践報告の「日本天皇の生前退位を前にして、まさか女天皇が誕生？」の参考文献は5本で、中国の学術雑誌に掲載された論文や修士論文、また日本のデジタル新聞によっていることがわかる。

2017年12月7日に掲載された実践報告の「「神秘」な日本天皇について」の参考文献は4本で、前表からわかるように中国の学術雑誌に掲載された論文が主になっている。

2018年6月16日に掲載された実践報告の「桓武天皇の遷都の宗教原因について」の参考文献は6本で、中国の学術雑誌に掲載された論文と、日本人学者の研究著作が半分ずつ占めている。

2019年5月1日に発表された実践報告の「日本神話と天皇」の参考文献は3本で、ルーズ．ベネディクトの著名な『菊と刀』以外は、中国の雑誌に掲載された論文が主になっている。

同じ2019年5月23日に掲載された実践報告の「日本年号制度の変化」の参考文献は3本で、やはり中国の学術誌に掲載された論文が主になっている。

以上の参考文献の分析から見ると次のようなことが言えるだろう。第一、中国の大学生は現代日本に関心があり、日本のマスメディア報道に常に関心を持ち、デジタル版の日本の新聞も読んでいる。第二、実践報告を作成する時には、学生の多くは中国で出版された研究書と発表された学術論文を参考し、日本の研究書の引用の多くは、中国語に翻訳されたものを多く参考していることがわかる。第三、日本語版の研究書の参考もあるが、日本語の論文が少ないのである。その原因は、中国でなかなか日本国内の資料調査を入手できないと考えられる。第四、1本の実践報告の参考文献の数は平均4本で、中国語3000字ぐらいの報告として、多くとは言えないが、学部生の実践報告としての模索はしていると評価してよいだろう。

四、実践報告の内容

次は、天皇に関する中国の大学生の実践報告の内容についてみていこうと思う。

2016年10月13日の「明仁天皇の生前退位とその背景」の主な内容は、次のようである。2016年の7月に起きた明仁天皇の生前退位事件をめぐって、その始まり、日本の各メディアの態度、その事件の背後原因の分析、日本国内各分野における態度表明、世論調査と専門家のインタビュー、世界各国の反応、日本民衆の反応とその文化要素などについて書かれている。報告は、客観的な立場に立って、日本メディアと政府と民衆の態度と反応を如実に書き、または報告者本人なりの分析、つまり、日本の神話や歴史書から天皇が日本人の心の中の位置づけと民衆の理解を書いたのである。明仁天皇に関する材料の利用から見ると、報告者の立場が天皇に好感を持って、文を作成したことがわかる。ここから、第一、明仁天皇が初めて中国を訪問された天皇であること、第二、明仁天皇が、長年、戦争に対して反省の姿勢を持たれることは、多くの中国人に良い印象を与えていることがわかる。

2017年11月29日の「昭和天皇と戦争責任について」の内容は次のようである。第二次世界大戦が終わって、50年間も経っている。A級戦犯が極東国際軍事裁判を受けていたが、日本支配者の最高位にある昭和天皇が戦争責任から逃れている。報告は、二・二六事件から、太平洋戦争までの昭和天皇に関する資料の考察を通して、昭和天皇が第二次世界大戦の発生から、発展、最後まで決定的な指導権を握っていたと結論を出した。しかし、軍事裁判を受けなかった原因については、報告は次のように分析をした。日本伝統的な天皇崇拝観念、アメリカの保護政策、日本右翼の支持、昭和天皇本人の親民活動などによって、結局昭和天皇は裁判を受けずに天皇制も保留することができたという結論を出した。報告の参考文献は、河原敏明、島田正雄、井上清などの日本人学者の著書が中国語に翻訳され出版された研究書が中心になっている。昭和天皇に対する中国人の嫌悪の感情リアルに書いた内容だと考えられる。

同じ2017年12月3日の「日本天皇の生前退位を前にして、まさか女天皇が誕生？」の内容は次のようである。2019年5月1日の皇太子の即位を前にして、女性天皇が生まれるだろうかについての考察であった。報告は、敬宮愛子内親王の成長から述べ、日本歴史上における10代の女帝の中、推古天皇と皇極天皇を例

にして、女帝の政治功績を述べ、近代以来の日本皇位継承をめぐって、皇位継承人として教育されてきた愛子が、悠仁親王の誕生によって、その可能性がなくなり、愛子内親王に対する同情を見ることができる。愛子内親王に対する同情は、現在の天皇徳仁と皇后の雅子への好感の延長線上にあると思われる。

同じ2017年12月7日の「「神秘」な日本天皇について」の内容も依然として、明仁天皇の生前退位から来る関心によって作成した報告である。この実践報告は日本天皇の起源、天皇称呼の確立、天皇制が千年以上続く原因などについて書いたのである。明仁天皇への好感によって、天皇制が千年以上続く原因を、伝統的な宗教である神道からの影響、身分社会の影響、対外戦争の少ない歴史、皇室の自律などの面から論じたのである。参考文献が中国語版の出版物が主なので、中国の社会の共同認識を代表していると思われる。

2018年は、天皇の生前退位も熱度が下がり、日本の天皇に関する報告は1本しかなく、しかも古代天皇に関するテーマであった。6月16日の「桓武天皇の遷都の宗教原因について」の内容は次のようである。報告は、桓武天皇が平城京から長岡京へ、また平安京へと遷都する背景と過程、または遷都の意義について考察を行った。作者は、日本古代の天皇の中でも桓武天皇が有為の天皇として、遷都を通して，天皇の支配権を強め、後400年ぐらいの平安時代の盛んな発展をもたらしたと評価する態度であった。参考文献は中国人学者の論文もあるが、日本人学者の横田健一の著書や、中国語に翻訳された高橋昌明の著作をも参考書目としている。

2019年は5月1日の天皇即位と新しい年号「令和」の誕生にともなって，天皇に関する実践報告は2本現れた。「日本神話と天皇」と「日本年号制度の変化」である。

「日本神話と天皇」は、ちょうど2019年5月1日の日に掲載された報告である。報告は、日本天皇制度が世界に最も長い君主制度として、その継続と発展は、日本神話と切っても切れない関係があって、日本神話が天皇の支配に合理的な理論根拠を提供していると述べた。報告は天照大神から三種の神器、日本人の天皇信仰という三つの方面から考察を行った。天皇の支配が継続できる理由として、天皇信仰と神道との関係、大和民族という単一民族、歴史上の天皇の多くが政治権力から遠ざかれた原因などがあると書いた。参考文献は、中国人学者の論文が主で、この報告の作者の立場は、日本天皇には好感を持っているといえよう。

「日本年号制度の変化」の内容は「令和」年号の誕生を手掛かりとして、日本年号と儒学思想との関係を考察した。日本最初の年号「大化」の採用から、「大宝」年間の年号制度の確定、「明治」年間の改元制度の確定まで述べ、その上年号が日本人の生活に大きな影響を与えていると述べた。参考文献が中国の出版物が主になっている。

五、結論

以上の考察から次のような結論を出すことができる。

第一、中国の大学生は日本天皇に関わる神話、歴史、制度、年号、乃至即位などに対し、関心を示している。それに関する著作や、論文や、新聞を読んでいる。

第二、古代の天皇について考察を行う場合には、女性の天皇にしろ、男性の天皇にしろ、その注意点は、天皇の政治功績に重点を置き、それに対して、積極的に評価する立場をとっている。

第三、昭和天皇に関する考察は、昭和天皇には戦争責任があることを述べている。報告の客観性を高めるため、引用している書物は日本人学者の書籍が多い。そこには、被害を受けている国の国民の立場が伺える。

第四、現代の天皇、具体的に言えば、明仁天皇、徳仁天皇に対しては、好感を持っている。その原因は、明仁天皇の中国訪問、靖国神社を参拝しなかったこと、または、中国のマスコミにおけるプラス的な報道の影響があると考えられる。

第五、参考文献の使用から見れば、翻訳されている日本人学者の資料もあるが、日本の文献の引用がやはり少ないようである。それは、資料検索上の不便もあると考えられるが、どのようにこのような不便を克服するかが、今後の課題となっている。

第六、天皇に関する大学生の実践報告は、かなり基礎的な内容に過ぎないが、授業以外の日本の諸領域に対する問題意識と中国大学生のチャレンジ精神が見られる。

第七、大学生の日本に対する関心点は、大学における教員の授業内容から深い影響を受けたとは必ずしも言えない。例えば、筆者の授業では、天皇に関する内

容は、年間の総授業内容の16.1％ぐらい占めているが、学生たちの天皇関連の報告数は2016年から2019年までの実践報告全体の8.1％しか占めていない。若い大学生たちは、やはり、日本の企業制度と企業文化、日本の集団主義に関心を示していることがわかる。